

# 津軽鉄道

日本最北端の民鉄。

津軽鉄道。昭和五年から走り続け、昔から市民の「足」として学生からお年よりまでたくさんの方に使われてきました。最近では車をかう人が増え、鉄道を利用する人が減っています。

## 桜のトンネル

金木芦野公園の桜が満開になり、桜のトンネルを才鈴虫を乗せて、津軽平野のレジン色の走れメロス号が中を鈴虫列車が走ります。

## 鈴虫列車

津軽鉄道の職員が育てた津軽平野のレジン色の走れメロス号が中を鈴虫列車が走ります。



## 風鈴列車

地元で作られた「津軽金山焼」の風鈴がきれいな音で津鉄応援会の人達が、色をひびかせながら、車内かすりのモンパ姿でスルメをすすしくしてくれます。

## 太宰列車

このように季節によっていろいろな楽しい列車を津鉄はやっていて、他にも「ホタル列車」や「七夕列車」「真夏のストロベリー列車」「太宰列車」などもあり、お客さんでにぎわっています。



## トレインアテンダント

今年から始まった奥津軽トレインアテンダント。七人のアテンダントさんが毎日十四便の列車に乗って沿線の魅力を伝えていきます。観光案内や地域の特産品の紹介、今年で生誕百周年の太宰治のことを津軽弁風に教えてください。案内だけでなく、イベント列車の企画、観光コースを作ったり、直接お店に行っておいしいものを探したり、お客さんに喜んでもらえるように、努力しています。お客さんからも喜ばれています。地域の人からも「がんばってトレインアテンダント、とても喜ばれているそうです。そして今日も津鉄と地域の発展のために津軽の魅力を伝えていきます。」

市民の足として今まで使われてきたけれども、車をかう人が増えた今では、地域の人だけでなく観光客の人達にも鉄道を利用してもらうと職員の人やトレインアテンダント、地域の人達が津鉄を支え、日々努力しています。

鈴木夏帆

